

松河戸地区の沿革

10 自治組織

(1) 島、組（区画整理前）

区画整理前の集落は、庄内川下の周りより一段高いところにあるかたまり単位を「島」と呼んで、島ごとに神社もでき、村の中の最小自治組織として古くから存在してきました。

古くからの民家は、字河戸と字村中に集中して6つの島からなりたっており、集落の東にあたる「河戸」のあたりは、道下島、中小路島、門田島があり、観音寺を挟んで西の「村中」には、八ツ家島、川原島、中島の計6つの島に分かれていました。昭和30年頃、道下島は戸数が減少し5軒になったので、中小路と合併し河戸島となりました。

つき合い、助け合いなどは島ごとに行われており、祭り、講、葬式、溝役などの行事は「島」単位で計画されていました。また軒数の多い島では、幾つかの組に分かれて行なわれてきました。

松河戸区画整理が終了するまでは、この5つの島は町内会組織として残っており、各島の代表として寺社へ年行司(祭りや農事の世話をした)を、区会へ区会議員を派遣していました。

区画整理により、住民は他の松河戸地区内や地区外へ移転して島という組織は消滅しましたが、区画整理後は、松河戸区内6つの丁目ごとに町内会が作られ、各町内会から年行司、区会議員を選出して神社や区会へ参加しています。

(2) 松河戸区会

大正初年までは、地主・自作・小作の階層がはっきりしており、頭分(地主)20人ほどで、区長・区会議員などを選出して村の事を決めていました。大正になって中年(自作)も参加できるようになり、昭和40年頃になって新しい転入者からも各島の代表者として区会議員に選出されるようになりました。

区画整理後は、島は消滅しましたが、各町内会長が区会議員として区会に参加しています。(松河戸区は「単独の区」として市に登録しており、現在のところ、区内にある6町内会は登録していません。)

松河戸の自治組織は多くの地縁組織がそうであるように、古くからのムラ組織を基盤に変遷してきました。

松河戸区は、昔からの地域の歴史、沿革、地縁などで構成されてきた区域といえますが、区画整理後は、新しく転入されてきた人の方が多くなりなりました。

新旧住民の混在した松河戸としては、松河戸の歴史を踏襲し新しい時代に則した方法を考えながら進めていく必要があります。

自治会組織は、明治以降国の方針で組織されてきたことありますが、現在は、「住みよい地域づくりのため、連帯感をもつて包括的に行う自治組織であり任意団体」と定められています。

そのため、市に対しては、地域の代表団体としての存在を認められているのと同時に、市が行き届かない細部について市からその地域の一部行政自治を任されています。

(3) 松河戸区の範囲

旧松河戸村(昭和 20 年頃)は、現在の松河戸町に加えて、愛知町、細木町、町田町、松新町、小野町の一部が含まれていましたが、昭和 23 年に松新が、昭和 53 年に小野が、昭和 55 年に愛知、細木、町田が分離したことにより現在の区域となりました。

分離した町の大部分は、かつて松河戸の美しい水田が広がっていた場所でした。

(4) その他の組織

○ 青年団

明治初めは若衆組と呼んでおり、15 歳で入会し 25 歳の春に脱会しました。

明治中期以降青年会となって、小学校卒業と同時に入会して厳しい規則に従いました。

13 歳から 3 年ぐらいは小若衆で走り使いをした(自分の島に跡継ぎのない時はできるまで)、その後、部長(2~3 年)、部長頭(18 歳)、後見人(20 歳前後)、大若衆(24 歳)と務めました。

青年会の仕事は、第一は祭り行事で、タルオマント、祇園祭、提灯山、秋祭り、お宮のおこまり、山の子、秋葉さま、苗代、堤防の草刈りなどの仕事がありました。

しかし、この組織も昭和 30 年頃までに消滅しました。

○ 消防

明治 35 年頃組織され、団員は 20~28 歳までで、昭和 30 年頃まで続きましたが、これも自然消滅しました。

(注意)

「松河戸町の沿革」は、参考資料の記事を転記又は抜粋してまとめたものです。
間違いや追加など補筆訂正がありましたらご連絡ください。

参考資料

春日井市史 地区誌編

区・町内会・自治会のしおり